

テーマ 「少量L-ドパ療法の使用の実際」

第2回研究会では、少量L-ドパ療法の臨床例を検討する。基調講演は、衝動性眼球運動の研究よりドパミン神経疾患と少量L-ドパ療法との関連性について、東大神経内科寺尾安生先生に御講演をいただく。また、本年の日本小児神経学会にて報告された2症例について深く検討する。昨年、基調講演をされた故瀬川昌也先生を偲びながら、有意義な討論をしたい。

日時 2015年7月5日(日) 13:00-17:00

場所 本郷瀬川ビル 6F 会議室 (文京区本郷 2-35-10)

プログラム

13:00-13:10 開会の挨拶 星野 恭子(小児神経学クリニック)

13:10-14:10 基調講演

Oculomotor manifestations of dopamine deficiency

-Segawa disease and Parkinson's disease-

寺尾 安生 (東京大学医学部神経内科)

14:10-14:40

チックおよびこだわりに対し少量L-ドパ療法が効果的であった Tourette 症候群の1例

中村 康子 (自衛隊舞鶴病院診療部)

14:40-15:10

休憩 (本郷瀬川邸 訪問)

15:10-15:40

抗神経病薬投与開始後早期に発症した dropped head syndrome に対し、

少量L-ドパ療法が奏功した自閉症男児の1例

井手 秀平 (東京都立北療育医療センター城南分園小児神経科)

15:40~16:15

話題提供 星野 恭子 (小児神経学クリニック)

1) Rett 症候群に対する少量L-ドパ療法

2) 「ドパミン受容体過感受性」が関連する病態について

~精神科・神経内科の研究より~

16:15~17:00 総合討論 (シンポジウム形式)

司会 林 雅晴 木村一恵

17:00 まとめ・閉会の挨拶

林 雅晴 (公益財団法人東京都医学総合研究所)